

① 研究課題：

膵管内粘液産生性腫瘍（IPMN）の嚢胞径増大率と悪性化の関係に対する後ろ向き臨床研究

② 実施期間（〇〇年〇〇月〇〇日まで）：

2028	年	3	月	31	日まで
------	---	---	---	----	-----

③ 研究機関：

大阪大学 消化器内科学

④ 主任研究者：

小玉尚宏（大阪大学消化器内科学・教授）

⑤ 研究目的：

膵嚢胞は膵発癌の危険因子として認知されつつありますが、経過観察中に増大・進展することをしばしば経験します。しかしながら経過観察中の嚢胞径増大率と悪性化の関連性については未だ明らかにされておられません。  
本研究の目的は、膵嚢胞を伴う方を画像検査で経過観察した場合において、嚢胞径や主膵管径の変化が悪性化に関連しているかどうか明らかにすることを目的としています。

⑥ 対象：（目標症例数があればそれも含めて書いて下さい）

大阪大学消化器内科学において、2000年1月より2017年12月の期間に腹部CT・MRI・超音波内視鏡といった検査で膵嚢胞と診断された方のうち、その後6か月以上の経過観察が行われた方を対象としています。

⑦ 研究方法：

大阪大学医学部附属病院の電子カルテより、IDや生年月日など個人を特定できる項目を除いて収集します。病歴（現病歴・併存疾患・既往歴・家族歴・嗜好歴）、転帰、診断名、病理所見、手術所見、内視鏡的逆行性胆管造影検査・超音波内視鏡検査・腹部CT・腹部MRI検査といった検査所見及びCEA・CA19-9等の血液データなどについて経時的に収集します。収集したデータを用いて膵嚢胞の患者さんのうち、悪性化する患者さんの特徴に関連する因子について解析を行います。

⑧ 利用する者の範囲：

大阪大学消化器内科において集積したデータを利用、解析します。

⑨ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称：

大阪大学消化器内科学 吉岡鉄平（助教）

⑩ プライバシーの保護：

プライバシー確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で研究解析を行います。また、研究結果を公表する際には、患者さん個人が特定されることはありません。試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象にしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。ご自身のデータを使ってほしくないとお考えの場合は、2028年3月31日までに下記にご連絡ください。

⑪ 本研究に関する問い合わせ先：

大阪大学消化器内科学 吉岡鉄平（助教）  
連絡先電話番号：大阪大学消化器内科学（06-6879-3621）